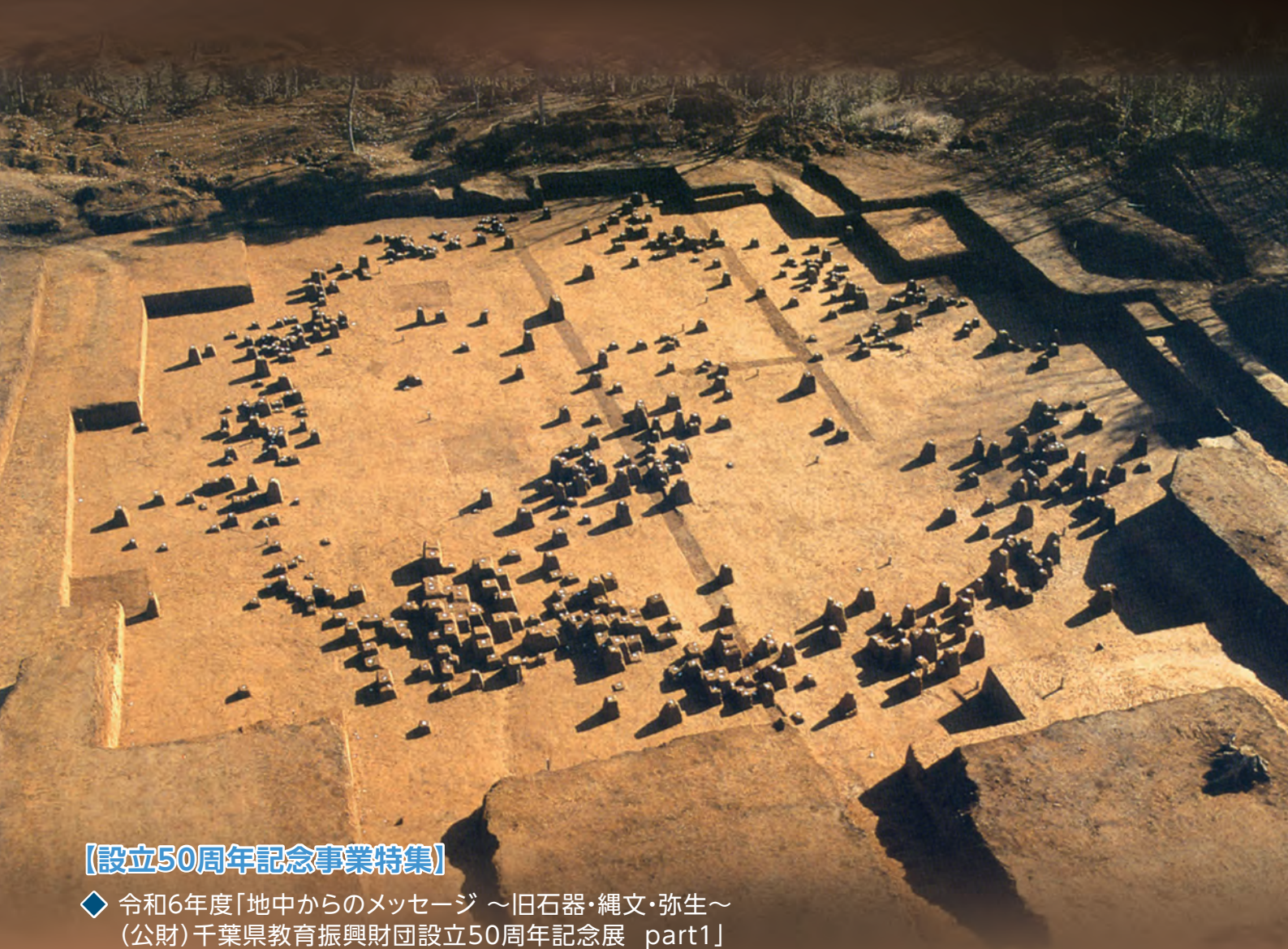


房総の文化財

VOL.64



【設立50周年記念事業特集】

- ◆ 令和6年度「地中からのメッセージ ～旧石器・縄文・弥生～
(公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part1」
- ◇ (公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念トークイベント
「縄文愛を熱く語ろう ～縄文とつながる今とこれから～」
- ◆ 令和7年度「地中からのメッセージ ～古墳・古代・中近世～
(公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part2」

【遺跡紹介】

- ◆ 佐倉市神門道乗谷津遺跡(1)・(2) ～ 斜面に広がるムラの跡 ～
- ◆ 佐倉市神門道乗谷津遺跡(2) 遺跡見学会

令和6年度出土遺物公開事業の成果報告

【地中からのメッセージ ～旧石器・縄文・弥生～】

(公財)千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part1

今回の展示は昭和49年に発足した当財団が50年にわたって行った発掘調査の成果のうち、旧石器・縄文・弥生の各時代を取り上げました。旧石器時代は千葉県から出土した石器群を古い方から順に1期から7期に分けて、石器群の変遷を示しました。縄文時代は「土器の移り変わり」・「縄文の技巧と道具」・「縄文人のムラづくり」・「水辺が語る縄文人の暮らし」という4つのテーマに沿って、主要な出土品を展示しました。弥生時代は「弥生再葬墓の時代」・「農具を作る工具類」・「水田のある風景」・「弥生中期の地域性」・「弥生後期の地域性」・「まつり・いのり・占い」・「房総の小銅鐸」という7つのテーマに沿って展示しました。皆さん、いかがでしたか？

会期中に展示解説会、展示内容に関連した講座と講演会を実施しました。講座は展示内容からテーマを選び、若手職員が担当しました。講演会では各時代の展示を担当したベテラン職員によって、テーマを深掘りした内容をお話しました。

今回のワークショップは、展示に関連して縄文時代の貝輪づくりにチャレンジしました。貝輪の素材となるベンケイガイや、加工のための道具である叩き石・砥石は縄文人と同じく海岸など現地で採集し、鹿の角は北海道に生息するエゾシカの角を入手しました。

それでは貝輪づくりにチャレンジです。まずはベンケイガイの頂部に最初の一撃、そこから鹿の角や叩き石で穴を徐々に大きくしていきます。もうちょっと広げたいと思っていると柔な蝶番部が割れて再チャレンジして完成した人もいれば、最初の1個を大事に作り込んでいく人と様々でした。割れ口を砥石で磨いて完成。貝輪づくりを通して、縄文人に思いを馳せることができました。

会 期

- 千葉県立房総のむら
令和6年9月21日(土)
～11月17日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和6年12月21日(土)
～令和7年2月9日(日)



展示解説会



ワークショップ (貝輪づくり)

表紙のコラム

写真は、昭和61年に発掘調査を行った四街道市池花南遺跡で検出された、旧石器時代初期(今から35,000年ほど前)の環状ブロック群です。

県南産の石材を主体とする台形石器や石斧、剥片類など740点が、直径約30mの範囲に見られました。石器の分布状態や内容は、当時の集落を考える上で貴重な資料であり、石器は千葉県指定有形文化財(考古資料)になっています。今回はその一部を展示しました。

縄文愛を熱く語ろうー縄文とつながる今とこれからー

多くの人々を魅了してやまない縄文!!

令和7年1月19日(日)、千葉市生涯学習センターを会場として縄文愛をテーマとしたトークイベントを開催しました。登壇者に西野雅人さん(縄文人の生活・生業・食生活を研究)、戸村正己さん(縄文土器製作技術を研究)、望月昭秀さん(フリーマガジン縄文ZINEを編集・発行)をお招きして、それぞれの縄文愛とこれからの夢などを大いに語っていただきました。登壇者の^{ほとばし}進む熱気が会場内にも伝わり、とても時間内では収まり切れないくらいの盛り上がりを見せました。



また、会場で戸村さんが製作した土器・土偶を展示したところ、来場者からたいへん好評でした。

皆さん、ありがとうございました!!



令和7年度出土遺物公開事業の予告

テーマ 地中からのメッセージ～古墳・古代・中近世～ ー千葉県教育振興財団設立50周年記念展 part2ー

令和6年に50周年を迎えた当財団では記念事業のひとつとして、50年間にわたり実施した埋蔵文化財発掘調査によって出土した遺物の中から選りすぐりの考古資料を展示し、千葉県の原始から中近世までを振り返ります。令和6年度の旧石器・縄文・弥生時代を対象としたpart1に引き続き、令和7年度はpart2として古墳時代・古代・中近世の展示を行います。期間中には、展示解説会・ワークショップ・講演会などを予定しています。

また、会期中に発掘調査で活躍する女性たちを描いた映画「掘る女」の上映会とトークショーを行います。ご期待ください。



【開催館と会期】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月6日(土)～10月26日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和8年1月17日(土)～2月23日(月祝)

【展示解説会】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月13日(土)、10月19日(日)
- 千葉県立中央博物館
令和8年1月18日(日)、2月14日(土)

【ワークショップ】古代組紐づくり

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月20日(土)
- 千葉県立中央博物館
令和8年1月31日(土)

【講座】

- 千葉県立房総のむら風土記の丘資料館
令和7年9月28日(日)

【講演会】

- 千葉県立中央博物館
令和8年2月15日(日)

映画「掘る女」上映会&トークショー

四街道市文化センター 令和8年1月18日(日)
主演の大竹幸恵さんをお招きします!!

ごう ど どう じょう や つ

神門道乗谷津遺跡は、印旛沼に流れ込む高崎川の支流である南部川から入り込む谷の最も奥に位置しています。この一帯は佐倉第三工業団地造成に伴い、昭和54年から60年にかけて、腰巻遺跡ほか14遺跡の発掘調査が行われました。

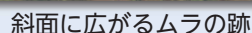
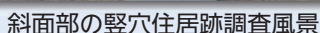
今回、追加の造成工事に伴い神門道乗谷津遺跡と腰巻遺跡が発掘調査の対象となりましたが、神門道乗谷津遺跡は遺跡群の中では最も西側に位置しています。

令和6年1月から断続的に行われた発掘調査は現在も継続中ですが、これまでの発掘調査で、斜面まで広がる古墳時代と奈良・平安時代のムラの跡が発見されました。

斜面まで広がるこれらの時期のムラの跡は、同じく遺跡群の西部に位置する腰巻遺跡と六拾部遺跡でも見つかっており、佐倉第三工業団地遺跡群における古墳時代から奈良・平安時代の集落や土地利用の変遷などを考える上で、たいへん貴重な成果と言えます。

斜面部の竪穴住居跡調査風景

斜面に広がるムラの跡



佐倉第三工業団地遺跡群分布図

見学会は令和7年2月9日(日)に実施しました。発掘調査現場では古墳時代後期から奈良・平安時代の竪穴住居跡について、遺物展示会場ではこれまでの調査成果をパネルで紹介するとともに、(1)地点で出土した土師器・須恵器を展示して、それぞれ職員が解説しました。

当日は好天に恵まれ、250名の方に御参加いただきました。見学された方々からは「集落の変化や住居の利用法についてよくわかった」・「発掘途中の現場を見学できる貴重な体験だった」・「時代が変わっても同じ場所に住居が作られるのが興味深かった」などの感想をいただきました。

